
essais ころみ 2025年10月

2025年10月3日（金） 曇り

朝晩ようやく涼しくなり、この間に小休止していた生活習慣の諸々も戻りつつある。とにかく歩く気になってきた。これから次の5月ぐらいいにかけては夏を分を配分して、帳尻を合わせるとしよう。

— あなたとわたしの パーソナル・アシスタント考— (5)

『究めれば そこが 天職』 5 レイトワーク（続）

俳優業も専門家も一線で活躍する時期からその後にその人ならではの光を放つには、そのためのアプローチが必要。

若いうちから地道に学び実践し続けるか、ある段階に覚って、新しい挑戦や学びを始めるか。どちらにしろ、アプローチの主眼は学び。

若いうちに覚っている人はたぶん少ない。大抵はその道に入り7, 8年経ったあたりで、“このままではダメだ…”。

新しい問題意識、テーマが芽生えたわけだから、この瞬間を逃してはいけない。何げない想起に思えても、しっかり受けとめる。

そして、どうすればいいかを考える。思いついたことを試してみる。たぶん、じっくりこない、ピンとこないことの方が多い。

自分のことは自分で見えないから、そういうこともあり得る。他者に心中を語り、意見をもらった方が「当たり」の場合がある。

誰にも〈話せる〉相手が一人、二人はいると思う。その人に話してみる。すると思わぬ視点や意見、情報を授かる。

そうこうして自分に合った具体的なアプローチが定まっても、時はまだ前期の途上、目の前の仕事が忙しいはず。

仕事をこなしながらも、足がかりはつけておく。一定の時間が経過したある時期に、本腰をいれるタイミングがくる。

若手俳優でいったん仕事を休止しアメリカやイギリスへ修業に出た人がいるように、専門家PAも場合によっては開店休業もあり得る。

既存の状態から新規のステージをつくるには、過渡期が必要。大なり小なり混沌とするが、それは常、前向きに諦める。

そういえば直近で大学院に挑戦し合格した人がいる。専門職として第一線で仕事しなら、将来を見すえてのアプローチ。

やっていけるかどうか不安を口にしていたが、やっていくに違いない。レイトワークの姿がみえた感じがした。

2025年10月6日（月） 十五夜



翌朝、月入り前のほぼ満月



2025年10月7日（火） 晴のち曇

昨日午後からすっきり晴れた。十五夜の月がきれいに望めた。今朝4時半ごろ、西の空に月入り前のほぼ満月も目にした。これで十三夜も愛でなければ。

ー あなたとわたしの
パーソナル・アシスタント考ー（5）

『究めれば そこが 天職』 5 レイトワーク（続々）

この「レイトワーク」を書いているタイミングで、長く続けてきたことをもう断つと宣言するような便りをくれた人がいる。

事情はあるていど承知しているので、そこまで考える必要もないんじゃないかと感じた。そんなニュアンスで返信した。

状況や環境変化で自分のおもうように事が運ばない、進まないことがある。落胆するし、前途が閉ざされたように感じることもある。

そういう局面から気を取り直すのは難しいけど、心から始めたことならば、『窮すれば、通ず』、必ず視界がひらける。

点でなく、線や面でものごとを捉えられる。いま無理して事を進めようとせず、長い目でみて前途を計る視点がめばえる。

どんな場合も無理はいけない。無理をすると、遅かれ早かれ、弊害が出てくる。自分に、または自分の身の回りに。

ついでに言えば、争っていいことは何もない。話し合う、説得する、といった努力をする。あるいは自分から遠ざかる。

争っていいのは、一つ。人間の尊厳を冒すようなことにはむしろ真正面から闘わなければならない。そのための知的武装も備えて。

人の寿命って、どう決まるのか、いつまで生きるのかわからないけど、ずっとやり続けたいテーマがあるというのは、しあわせなこと。

おカネになるならないの問題でなく、『それで心が安定して心の喜びも感じれるかどうかの問題』（岡潔）。

究めるほど長い年月をかけることになるのは間違いないから、道の途中で小休止があって、当然。

無理はせず、でも努力はかさねて、歩いていきましょう。

2025年10月8日（水） 午後5時すぎ、西にしずむ中秋満月



2025年10月10日（金） 晴のち曇

昨日も今日も日中もすごしやすい。20日までは真夏日近い気温になる予報だけど、そろそろ秋の服装もできそう。「歩き」ぐらいしか運動らしいことはしていないので、季節のよいうちに本腰をいれようかと。

— あなたとわたしの
パーソナル・アシスタント考—（結び）

余談1 そうしたい？

この「考」もそろそろ終わりにするとして、これまでの〈経過観察〉の中で“…？”と感じたことで、自分なりに行きついた考えを書こうかと。

事務所開設してまもない時に、自分のことを自分で「変っている」と言う人がいた。

同じ時期に別の人が、「わたし、持っているのよ」。何をといえば、霊的な能力をもっていると。

どちらも怪訝な顔で相手を見つめたと思う。とっさに頭の中では、“本当にそうなら自分で言うかな…”。

先の方はそもそも変っているという印象はなかった。知り合って7年ほど経っていたから、「そんな風に思わないよ」と返した。

事務所を開いてから足繁く通うようになってそんな話にもなった。変ってないと言われて、少し不満そうだった。

霊的能力があると言った人も事務所を開いてからよく来るようになった。それまではたまにしか会っていないが、靈感があるとは…。

その後、仕事でいろいろな人の話を聴くが、ちよくちよく同じようにいう人がある。ある時、そう言った本人に尋ねてみた。

「靈感があるというのは、例えばどんな風にですか?」。ちょっと考えて、「例えば、友だちから電話を直前に感じるとか」。

たぶん表情にも出たと思うが、「あっ、そうですか」と返して、話を切り替えた。その程度ならそこそこ持っている人は少なくないのでは?

変っていると自分から言う人は、よほど人から言われたか、自分でそう思いたいかのどちらかではないか。

靈感があるという人も、実際にある人は周りがほっておかず、すでにどこかで何かの役目を果たしているのではないか。

変っているユニークな人、靈感のある特別な人、そう自分で思いたい。そういうことではないかと。今のところ、そうみてとっている。